

災害に強いまちづくり

自分たちの町は自分たちで守る！

問い合わせ 防災安全センター ☎24・8150

災害に強いまちとは

「災害に強いまち」と聞けば、住宅の耐震化が進み、救急車や消防車がいっでも活動できるように街路や防災設備などが整っている状況が思い浮かびますが、それだけでは万全とは言えません。施設や環境が整備されていると同時に、地域の人々が助け合える「共助」の関係が必要です。

現在、市内全地区には「自分たちの町は自分たちで守る」ことを目的に結成された自主防災組織があります。地域の住民にとって最も頼りになる存在です。主に初期消火や避難誘導、応急手当などの活動が期待されています。



しみん救護員になろう

自主防災組織内で応急手当の専門知識を持った人材が救急リーダーとして活躍できるように「しみん救護員」の制度があります。現在、年2回(前期・後期)募集を行っており、今年度の後期は12月～2月に講習を行います。しみん救護員に興味のある人は消防本部防災指令課 ☎20・2710)までお問い合わせください。



しみん救護員
藤原勇二さん(吉竹町)

防災対策を理解しよう

「防災対策」は決して堅苦しいものではありません。隣近所で、町内で、楽しみながら気軽に始められる取り組みがたくさんあります。

地区運動会のプログラムに、バケツリレーや消火器を使った当てる競争などを盛り込んだり、防災マップを使った防災ウォーキングを開催したりすることも一つの方法です。地区で防災に関する講習会を開催する場合は、ぜひ市政情報講座をご利用ください。

無料 市政情報講座

「高齢者向け防火講座」「火災と地震から身を守る術」などの様々な講座を、市職員が訪問してお答えします。

とき 9時～21時の1時間程度

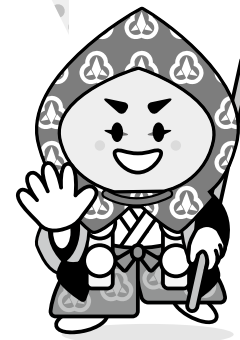
ところ 市内に限る。会場確保は申込者で行う。

対象 町内会や団体など(10人以上)

そのほか 会場費を要する場合は申込者負担

申し込み 希望日の2週間前までに広報秘書課 ☎24・8016

9月は
防災月間!



こまつちゃん ●健康づくりについて市長の考えをお聞かせください。

和田市長 ●未病のうちから自らの健康に関心を持っていたとき、1年に1回の健診による健康チェックで病気を早く見つけることが大切ですね。病気になるっても早期発見により重症化を防ぐことができ、長くいきいきとした生活を送ることができます。

市では、子供からお年寄りまでいっまでもはつらつと健康な毎日過ごすことができるよう「予防先進都市」を目指しています。病気の重症化や介護などの重度化を防ぐため、地域の課題と実情に応じた予防の取り

組みを推進しています。皆様のまちな健康サポーターや医療機関、民間の協力を得ながら、地域全体で健康を支えるまちを創っていききたいと思っています。

こまつちゃん ●長引く残暑で、夏バテや睡眠不足の人もいると思います。

和田市長 ●厳しい暑さが続いた8月も終わり、少しずつ秋の気配が近づいています。スポーツの秋と言いますが、秋は運動に最適な季節です。

運動を長続きさせるコツは、楽しめるスポーツから始めることです。勝敗にこだわらず、子供からお年寄りまで気軽に始めることができます。楽しむことができるニュースポーツは、健康づくりや体力づくりに最適です。各校下のスポーツ推進委員が、様々なニュースポーツのルールや実技を丁寧に指導していますので、始めてみてはいかがでしょうか。

おしゃれなスポーツウェアを選び、運動と一緒にファッションも楽しめれば、更にやる気も高まりますね。

健康は生涯の宝です。地域で健康づくりに取り組み、日本一の「健康長寿のまち」を目指してまいります。

動詞が後ろに来る言語に感謝

現在の世界共通語は英語ですが、私は日本語の方が適切なように思います。それは、日本語が相手への配慮や思いやりの詰まった言語だからです。

日本語の語順を見てみましょう。例えば、タクシーで運転手さんに行き先を伝える時「次の信号を右へ曲がってください」と言いますね。日本語では文章の最後に、行動を表す「曲がってください」を言います。相手は「どこで」、「何を」など必要な情報を全部聞いた後に行動することになります。

一方で、英語やポルトガル語の場合は相手にまず行動を取ってもらうような順番で話します。先の例をポルトガル語で言うと「ください 曲がって 右へ 次の信号を」という語順になります。動詞には人を動かすパワーがあるのでしょうか。最初に聞いてしまうと、聞き手はつい先に行動を起こしてしまい、手前の信号で曲がってしまうことも起こります。

日本ではよく事前に打ち合わせをし、訪問する際にも相手に連絡を取ってから行くなど、相手に情報を与えて準備ができるように配慮する文化があります。連絡を取らずにとにかく行ってみるという他の国の文化とは大きく異なっていると思います。

言語は文化に反映されるものです。必要な情報の最後に動詞が置かれ、事前情報をしっかりと伝えられる日本語が私は大好きです。コミュニケーションが大切にされる今日、配慮や思いやりがたくさん詰まっている日本語が世界共通語になれば、世界平和に大きく貢献できるかもしれませんね。



▶「アイ・ラブ・ユー」は英語表現でも直接的に思いが伝わるので残してほしいです。

皆さんからのご意見や感想をお待ちしています。 国際都市推進課 ☎24・8039 kokusai@city.komatsu.lg.jp